

## 日本技術士会近畿本部登録中国研究会 2019 上海市養老科技発表他 概略報告

2019.7.15 中国研究会会長 掛田健二(衛生工学)

2017年11月上海市在宅介護国際シンポジウムでお世話になった、上海市楼宇科技研究会秘書長銭兵雷先生の招聘により、6月29日(土)午後には上海市科学技術協会第17回学術年会養老科分科会で、関西地区の養老科学技術(大阪市大健康科学研究(未病状態・疲労の解析と改善)、大阪商工会議所次世代医療システム産業化MDF関連事業)を中心に「日本・関西地区の養老科学技術プラットフォーム事例紹介」を行った。いずれもHPに掲載された資料に基づき掛田が行事に参加した案件で有り、発表の許可を得ている。

6月28日11:35に関空から上海浦東空港到着、上海科友国際旅行社有限公司 成勇良副総経理・兼通訳の出迎えて定宿の4☆上海徐匯瑞峰酒店にチェックイン。地下鉄1本乗り換えで上科学技術協会へ。15:00からの面談は、陳爾海外担当副会長、楊毅国国際部長、Nancy 林艶花氏 が出席。楊部長から今年の訪日団は準備不足で不可だが、来年から1年ごとの相互訪問を提案された。揚子江沿岸部の主要都市の科技協会を紹介できる、上海市地方の科技協会も日本と交流希望とのこと。又、香港科技協会会長に近畿本部が11月18日に訪問することを連絡済み、香港に近畿本部依頼状が必要。会談後、改装なった科学会堂を案内いただき、23階の特別食堂から旧フランス租界地・浦東3大ビルを眺望した。5階のレストランで夕食の招待を受けた。

上海市では急速な高齢化・在宅介護対策に対応すべく、今年の5月18日に「上海市養老科技連盟」を13団体で設立、上海市科技協会の傘下団体となった。13団体は、上海市通信学会・上海市標準化協会・上海市電機工程学会(会員0.4万人)・上海市建築学会・上海市城市科学研究会・上海市人類居住学研究会・上海市楼宇科技研究会・上海市医学会(2.6万人)・上海市中西医结合学会(1.1万人)・上海市護理(看護)学会(4.8万人)・上海粗健康回復医学会・上海市科普作家協会・上海市老科学技術工作者協会。

6月29日の養老科学技術分科会は、近畿本部以外は全て中国組織。日本からの海亀(Uターン高級技術者)もかなり参加。発表題目は「5G時代の在宅知恵介護」「試論:養老産業産品表 1.0」「品質視野:都市区域健康養老の協同性」「科学普及と知恵養老」「聯盟編集出版 養老教材の設計思想」。我々の発表内容と一致する事が多いが、具体例の言及はまだ少ない。日本の事例・情報・施設見学に期待が高い。海亀組の廬さん(東大卒・三菱電機退職)から養老技術に北京の投資家が非常に興味を持っている旨、話有り。下部写真は左から郭新秘書長、掛田、銭前秘書長、三木、姜氏。総会后、歓迎夕食会で歓待・記念品をいただいた。

6月30日(日)は梅雨で雨。上海市黄浦江周りを市内観光バス(80元・1日乗り放題)と地下鉄で2人散策。夕食は旧知のHitz上海貿易の馬向東董事長、田中徹部長と懇談。日本の知財マネジメントの現状を説明した。

7月1日(月)は姜氏の友人憑強共同董事長が、200億円かけてリノベーションした養老病院・養老(健康・介護別)施設「人壽堂顧養院」を見学。上海動物園、西郊賓館(超VIP)、共産党幹部住宅・養老施設に隣接する郊外高級住宅街で交通の便が良い。7月15日開院。株主はシンガポールとUSA、憑董事長もUSA国籍。G20で中国の外資投資緩和により、日本からの投資、病院進出、日本人医師派遣を期待。投資家憑氏は、中国製造業の伸びは頭打ち、今後は養老病院付き介護施設に投資、特に北京・上海・広州に集中して3年以内に利益を5倍、5年後にnasdaq上場を目指すと言気軒昂。日本のロングライフホールディングを参考に、年4、5回日本を調査。昼食の介護食(薄味、温野菜、骨付き肉、スープ)を美味しく試食。地下鉄上海動物園駅から浦東空港まで、地下鉄1回乗換え1.5時間で到着。無事帰国した。(終)

